

# 小樽市観光基本計画策定委員会 第六回委員会議事録

日時 平成 28 年 10 月 26 日(水) 14:00～15:30  
場所 小樽市公会堂 1 号室

## 次第

(1)開会 李委員長より開会の挨拶があった。

## (2)今までの議論経過と主要施策に基づく主な取組

●これまで議論された内容(課題→目指すべき姿→方向性→主要施策)と、それを具現化するための取組み例・案および今後 10 年の 事業計画イメージについて事務局が提示し、その説明があった。

○「今までの議論経過と主要施策に基づく主な取組」(配布資料 1-1)

●提示された「主な取組み例」を中心に、委員より意見が出された。

○議論から導き出されキーワードに「市民」に関するものが多く占められており、“ホンモノの小樽”を目指す上で市民と観光客のふれあいがポイントとなるので、提示された取組み例には市民との結びつきを示すものや、市民が関わるため人材育成についての記載をもっと盛り込むべきである。

○市民と観光客のかかわりを大切にする視点から、体験メニューを広げていくことが求められる。

○市民が参加し、観光はオール小樽で取り組むというイメージを浸透させたい。

○免税対応への理解の乏しさなど、観光客と向き合う現場の意識レベルの低さを実感している。現場の人材に向けた教育が急務だ。

○ホンモノの小樽に向かって、誰がどういう役割をもって行うのかを具体的に入れ込むべきである。

○地元の観光や産業のことを学校教育のカリキュラムへの取り入れることは、地元愛を醸成し観光への意識を高めることができる。現状実施しているものを含め、今後より多面的な取組みを行い、子どもたちにアピールすることが大切である。

○郷土を思う教育によって、感動や気づきが生まれ新しい発見があり、ホンモノの小樽に近づくことになると思う。

○DMO 構築を視野に入れるならば、“儲かる仕組み”が必要で、その意味で NPO 法人や一般社団法人など、地域を支える人を巻き込む記載が必要だ。

○広域連携に向けては、優先順位を明確にし意識共有を図ることが大切だ。

○これからの 10 年に向けて、何を目指しどのように変わろうとしているのか、ホン

モノの小樽とは何か、10年後のイメージがまだ見えない。

○夜の散策や、Wi-Fi 環境整備を重点的な取組みとしたい。

●引き続きアドバイザーから助言をいただいた。取組み例は、もう少し独自性や地域性に踏み込んだ記載が必要であることや、DMO については小樽版と広域連携の関係性を明確にする必要があること、個々の予算づけをイメージすること、部署間の“横の連携”から導き出される事例も盛り込むことや現在問題化している事案を解決するための取組みを具現化することなどが指摘された。また、歴史や文化への活用への取組みを的確に取り入れることや、市民と向き合う機会づくりを継続することの必要性について言及があった。

●事務局は、出された意見を受けて取組み案の改案を提示することとなった。

## (2) 小樽市観光振興室が考える 10 年後の小樽観光ビジョンについて

●事務局より、観光振興室が考える 10 年後のビジョンについて説明があった。

○「小樽市観光振興室が考える 10 年後の小樽観光ビジョン」(配布資料 1-2)

●提示された小樽観光ビジョンに、委員より意見が出された。

○グローバル社会を生かした表現になっていない。

○外国人観光客を排除するようなイメージに見える。

○日本人、外国人という切り口ではなく、「魅力ある観光地づくりによって何度も訪れたいくなるマチの具現化」などのような方向でまとめてはどうか。

○DMO の記載があるが、DMO は「資金」と「人材」がポイントである。資金の観点から、観光税などの“取る”ための検討も念頭に置くことが重要である。

●事務局は、出された意見を受けてビジョンの改案を提示することとなった。

## (4) ワークショップの開催結果と第 2 次基本計画へのフィードバック

●事務局より、10 月 1 日に開催されたワークショップの開催報告があった。あわせて、第二次計画への盛り込む内容として、ワークショップの意見を参考にした「計画推進の主体の役割」と「小樽観光振興に向けた推進体制づくり」の記載案が提示された。

○「ワークショップの結果概要と第 2 次基本計画へのフィードバックについて」(配布資料 2)

○参加グループ別議論資料(配布資料 3)

## (5) 閉会

李委員長より次回の日程を確認し、閉会した。

<次回委員会 11 月 28 日(月) 14 : 00 ~ / 小樽市役所 別館 3 階 第 1 委員会室 >